

2007 年度事業報告

1. 会誌の編集発行

第 61 巻第 2 号～第 6 号および第 62 巻第 1 号を編集し、発刊した。報文 15、ノート 7、速報 1、Short Paper 1、総説 4、解説 15、資料 3 の計 46 件を掲載した。前付け・後付け会告を含め、総ページは 353 頁であった。なお、第 61 巻第 2 号から第 62 巻第 1 号における特集の企画テーマは、「海と大気環境」、「製塩環境における局部腐食対策と現場評価技術」、「食のサイエンス—塩との関わり—」、「海水および塩の分析に関する最近の進歩と話題」、「水域のバイオマスと環境修復」(西日本支部の企画編集)、「ミネラルと生物機能」である。

2. 年会総会・研究技術発表会の開催

平成 19 年 6 月 5 日(火)～6 日(水)の会期で、中央大学理工学部小ホールにおいて第 58 年会総会・研究技術発表会を開催した。研究技術発表は口頭発表 20 件、ポスター発表 19 件であった。ポスター発表のうち 17 件が口頭発表との重複発表であり、15 件が 35 歳以下の発表者であった。学術賞受賞講演を兼ねた特別講演 1 件があり、約 100 名が参加した。また、学術賞 1 件、技術賞 1 件、奨励賞 1 件および功労賞 2 件の表彰を行った。

3. 西日本支部の活動

1) セミナー「水域のバイオマスと環境修復」の開催

平成 19 年 9 月 11 日、放送大学広島学習センター(広島市)にてセミナーを開催した。参加者は 24 名、特別講演 1 件、依頼講演 3 件であった。

2) 会誌特集号の企画、編集

第 61 巻 6 号(西日本支部特集号)を、「水域のバイオマスと環境修復」の特集号として、企画、編集した。

3) 第 59 年会開催の準備

年会実行委員会を中心に第 59 年会の開催準備を進めた。

4. 研究会の活動

1) 電気透析および膜技術研究会

① 荷電膜コロキウム開催

第 36 回(平成 19 年 11 月 20 日、東工大百年記念館、講演:2 件、参加者:19 名)および第 37 回(平成 20 年 3 月 21 日、東工大百年記念館、講演:2 件、参加者:19 名)の 2 回実施した。

2) 海水環境構造物腐食防食研究会

① 会誌特集号の企画、編集

第 61 巻 3 号を「製塩環境における局部腐食対策と現場評価技術」をテーマとして特集号を企画、編集した。

② 研究会例会の開催(財団法人塩事業センター海水総合研究所)

第 46 回(平成 19 年 9 月 19 日、(財)塩事業センター、講演:4 件、参加者:30 名)および第 47 回(平成 20 年 3 月 5 日、東工大百年記念館、講演:3 件、参加者:25 名)の 2 回実施した。

3) 環境・生態系・生物資源研究会

① セミナーの開催（広島大学千田町キャンパス）

「海洋バイオマスと環境修復」をテーマとしてセミナーを開催した。

② 会誌特集号の企画，編集

第 61 巻 6 号に「水域のバイオマスと環境修復」をテーマとして，また，第 62 巻 1 号に「ミネラルと生物機能」をテーマとして，それぞれ特集号を企画，編集した。

③ シンポジウム，講演会の開催（JAみやぎ登米）

平成 20 年 3 月 24 日，「食と水の安全・安心」をテーマに 4 件の講演を実施し，技術情報の提供と討論が行われた。

4) 塩と食の研究会

① 情報誌第 5 号の発行

5) 分析科学研究会

① 分析技術講習会開催に向けての調査の実施

次年度開催の分析技術講習会に向けて，開催予定地の沖縄県内の関係業者へのアンケート調査を行った。

② ニュースレターの配布

第 4 号，5 号を発刊した。

③ ミニシンポジウムの開催

平成 20 年 2 月 29 日に財団法人塩事業センター会議室で「海水，塩，食品の分析に関する最近の進歩と話題 Part 2」をテーマに 3 件の講演を実施し，技術情報の提供と討論が行われた。

5. 各種委員会の活動

1) 編集委員会

年 3 回の編集委員会を開催した。第 61 巻第 2 号～第 6 号および第 62 巻第 1 号を企画・編集・発刊するとともに，海水誌総目録（10 年ごとの総合索引：PDF ファイル）の作成とホームページ上での公開等を行った。また，著作権委譲，海水学会誌掲載論文の転載や公的機関による内容の公開，インパクトファクターの取得を含めた海水学会誌の編集方針について議論するとともに，海水学会誌投稿規則の変更（引用文献の記載において，英文タイトルのない和文原稿については記載を省略できること等），同表紙の記載方法，会告の簡略化・ボリューム削減，査読者の選定方法の変更等について検討した。なお，著作権委譲については，著作権の移譲を明確にするために，掲載時に著作権委譲承認書の提出（筆頭著者もしくは連絡責任者がサインした後に返送）を求めることとした。論文の転載や公的機関による公開については，しばらくは個別に対処するものの，早急なガイドラインづくりが必要であることが確認された。海水学会誌の編集方針については，編集委員会主体の研究会横断型の企画に切り替えるとともに，むやみにインパクトファクターの取得に走ることなく，内容の充実を最優先させること，「学」のみでなく「産」からの投稿活性化を図ることなどが了承された。

2) 研究委員会

研究会役員名簿を整備し、また、各研究会の活動状況や資金状況を明らかにし、相互チェックできる体制を整えた。学会からの交付金の予算計上についても、研究委員会で調整した。新たに提案された研究会について、活動範囲などに関する助言を行った。研究会の活動を海水学会員に如何にして伝えるか、また、研究会活動を会員増につなげる方策などについても意見交換した。

6. 若手会の活動

1) 若手会の発足

第58年会総会(平成19年6月6日)にて発足が承認された。

2) シンポジウム「海の可能性 -海水資源の有効利用, 未来へ向けて-」の開催

平成19年6月5日(火)に中央大学理工学部において「海の可能性 -海水資源の有効利用, 未来へ向けて-」をテーマに7件の講演を実施し、技術情報の提供と討論を行った。

3) 学会誌特集号(第62巻第2号掲載)の編集

シンポジウムの講演内容を中心として、「海水資源」をテーマとした特集を企画した。

4) 第8回若手の集いの企画

平成20年6月7日に開催する若手の集いについて、「海水淡水化技術の現状と将来」と題した講演会、見学会を企画した。

7. 事務改善

ホームページを通じて、日本海水学会の企画行事、投稿規定などの最新情報の提供などの会員サービスに努めるとともに、事務局における事務処理の簡素化、マニュアル化を前年度に引続き進めた。

8. 会員異動

個人会員：入会 14名、退会 27名、年度末現在 378名

維持会員：入会 0社、退会 2社4口、年度末現在 51社439口